

患者さんへ 肺癌手術合併症臨床データ利用のお願い

西神戸医療センター呼吸器外科

肺癌は近年増加傾向にあり、我が国の癌死の第一位となっています。当科でも年間約 80 例の手術を施行しています。当科では総合病院という点から、合併症を持つ患者さんにも、放射線科、呼吸器科をはじめ、様々な診療科と密接に連携しつつ積極的に治療を行っています。しかしながら、手術療法にはある一定のリスクが存在することも事実です。たとえば呼吸器外科手術のもっとも重篤な術後合併症として、術後早期に発症する間質性肺炎の急性増悪があげられます。2008 年度の日本呼吸器外科学会の統計によると、間質性肺炎合併肺癌の術後急性増悪は術後死亡のトップであることが明らかにされています。この術後急性増悪は、発生の予測が困難ではっきりした治療指針もない状態です。我々は京都大学と共同で間質性肺炎合併肺癌患者さんのいろいろな臨床データ（喫煙指数、各種血液データ、呼吸機能検査、手術方法や手術時間、使用した薬剤など）を集めて研究し、この術後急性増悪の原因因子の解明を目指しています。また術後間質性肺炎急性増悪に限らず、術後の肺炎、肺癆、血栓症、脳梗塞などその他の重篤な合併症の予防、治療のために様々なデータの集積を行っています。

これらの臨床データは通常に診療を受けていただく際に記録されるデータであり、特別に採血など患者さんに負担いただいて収集するものではありません。また、これらの臨床データは厳重に管理され、学術目的で使用される際には、患者さんの氏名・住所など個人を特定できる情報は含まれません。患者さんには臨床データの利用の目的と趣旨をご理解いただけますようお願い申し上げます。このような臨床研究に対してさらに説明を希望される方、また個人の臨床データのデータベースへの収集及び臨床研究への利用を拒否される方は担当医師またはデータベース管理担当者(大竹洋介)までお申し出ください。また利用を拒否された患者さんに不利益は生じません。